

創立十周年記念号

目次

十周年記念を祝う……………内海清温…1  
 十周年記念に寄せて……………岩沢忠恭…2  
 話し合いの場……………溝口三郎…3  
 道標……………西松三好…4  
 建設の機械化の進展に寄す……………松野武…5  
 創立10周年記念懸賞論文審査評……………懸賞論文審査委員会…6  
 「座談会」  
 建設機械の生い立ち——戦時中の回想……………坪賀…7  
 「座談会」  
 建設機械10年の歩み……………石川正夫…16  
 「座談会」  
 建設機械化施工10年の歩み……………橋本義則…28  
 協会の事業活動について……………36  
 本協会の各部会、専門部会の動き……………38  
 普及部会……………38  
 技術部会……………38  
 施工部会……………45  
 整備部会……………45  
 水力開発機械化専門部会……………47  
 道路工事機械化専門部会……………48  
 土と基礎機械化専門部会……………51  
 指導書専門部会……………55  
 製造業部会……………55  
 建設業部会……………55  
 商社部会……………55  
 サービス業部会……………55  
 建設技術の海外進出……………平山復二郎…56  
 メコン川調査雑記……………川勝四郎…58  
 アフガニスタンの交通と道路(つゞき)……………神谷洋…63  
 黒部川第四ダム建設工事における  
 ダンプトラックについて……………芳賀公介・坂井高保…67  
 「誌上アースムービングコンファレンス」No. 5  
 土工工事—運土作業の基本事項……………石川正夫…74  
 ニュース……………(編集部)…79  
 行事一覧・編集後記……………(小林・長尾・寺島)…80

◇表紙写真説明◇

電源開発株式会社 田子倉ダム

施工 前田建設工業株式会社

田子倉ダムは昭和31年中に約1,000,000m<sup>3</sup>の基礎掘削を終え、31年11月16日コンクリート打設開始、本格的打設開始は昭和32年3月からであるが、輝かしい打設記録を樹立して、このほど第1次湛水を完了した。

第1次湛水開始	昭和34年3月23日	発電機	95,000 kW	3台
第1次湛水最高水位	459 m	最大出力	380,000 kW	
第1次湛水貯水量	1億3,000万 t	試運転	3台完了	
バイパス敷高	393 m	第1次湛水による出力	144,000 kW	

コンクリート打設用主要設備

700 t/h 骨材プラント (神戸製鋼, 三機工業)	1基	13.5 t ケーブルクレーン (石川島重工)	1基
300 t/h 骨材プラント (古河工業)	1基	9 t ケーブルクレーン ( " )	1基
25 t ケーブルクレーン (日立製作所)	1基	112切-4型パッチャー (石川島コーリング)	1基
25 t ケーブルクレーン (米國スタンダード)	1基	56 " 4型パッチャー ( " )	1基

コンクリート打設記録

昭和32年	450,000 m <sup>3</sup>	昭和33年	1,100,000 m <sup>3</sup> (110,000 m <sup>3</sup> /月)
		月最高打設量	146,000 m <sup>3</sup> (33年5月)
		1日平均	4,870 m <sup>3</sup> (5,000 m <sup>3</sup> /日以上13日)
		日最高打設量	8,462 m <sup>3</sup> (33年7月30日)

田子倉には、現場に2級整備工場を設け、月1回全機械の定期整備を行い、工事推進に万全を期しており今年中に残り400,000m<sup>3</sup>のコンクリート打設完了を目指し鋭意努力中で、完成の暁は本邦最大の発電所が誕生する。